

## 2020 年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

### 「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」

#### 講評

評価者： 見世 千賀子  
東京学芸大学  
国際教育センター 准教授

#### 学校名

ジャカルタ日本人学校

#### キーワード

考え対話する授業のデザイン、教員研修（全校授業研修、初任者研修）

#### 講評

COVID19 の感染拡大の影響により、インドネシア国内すべての学校の登校が禁止されたため、ジャカルタ日本人学校でも、令和 2 年度はすべての教育活動をオンラインで実施しています。ここでの取り組みは、主に次の 2 点において特に優れており、いずれの学校においても参考になると考えます。

第 1 は、「オンライン授業における考え対話する授業の実現」への取り組みです。例えば、小学部 6 年生では、ロイロノートや Good Note 5 を導入し、ロイロノートで児童の考え等を書かせて一斉に見合ったり、Good Note 5 の板書に即反映し対面授業における板書のように提示したりすることで、お互いの考えや感想を交流させ、考え対話する授業を実現しています。（国語、社会科、算数科、道徳の例）

第 2 に、取り組みが学校全体で行われている点と、それを可能にする、オンライン教員研修です。学校への登校制限によって、教員同士も気軽に授業について話す時間や他学年の教員と出会う機会が少なくなっています。それを補うために、校務システムの 1 つであるミライムという校内イントラネットを活用し、授業実践を交流し、情報を共有することで、授業改善につとめています。また、オンライン全校授業研修の際には、公開授業は録画して共有し、事後研修ではホワイトボードアプリ・ジャムボードを活用してグループごとの協議・意見交流を活発にする工夫をしています。また、初任者研修として教職経験 3 年以内の教員を主な対象に、Google Meet、Google Form 等を活用してオンラインでの全体講義、グループワーク、初任者研究授業、振り返り等を行い指導力の向上に役立てています。

このほかには、オンラインでの現地理解教育やインドネシアと日本に一時帰国している子供をつないだオンライン同窓会（小学部 6 年）等、日本人学校ならではの取り組みも興味深いものであり、参考になると思います。